

通所介護施設「デイサービスセンター暖家」の利用形態と使われ方

—木造民家を活用した通所介護施設と介護予防・生活支援サービスの一体的整備運営 その3—

准会員 ○瀬戸口 佳奈美\*  
正会員 三島 幸子\*\*  
正会員 中園 真人\*\*\*

医療法人 通所介護施設 事業概要  
生活支援 使われ方

1. はじめに

その1、2では医療法人社団田町診療所の事業内容を整理し、運営する3通所介護施設の概要について論じた。そこで、本論では要介護の高齢者を受け入れる商店を活用した通所介護施設「デイサービスセンター暖家」（以下、暖家）の利用者の基本属性を整理した上で、施設の利用者基本属性調査結果をもとに、活動プログラムと場面転換の分析を行い、暖家の使われ方の特徴を明らかにすることを目的としている。

調査は第1に、利用者の基本属性及び利用形態を明らかにするため、3施設に対し利用者に関するアンケート調査を行った。調査項目は、利用者の性別・年齢・介護度・車椅子の有無・利用頻度・入浴の有無、居住地域である。第2に、3施設での利用者・職員の行動観察調査を行った。行動観察調査は終日5分間隔で行為の場と内容の記録及び写真撮影を行った。調査期間は2018年8月28日、9月3,7日である。

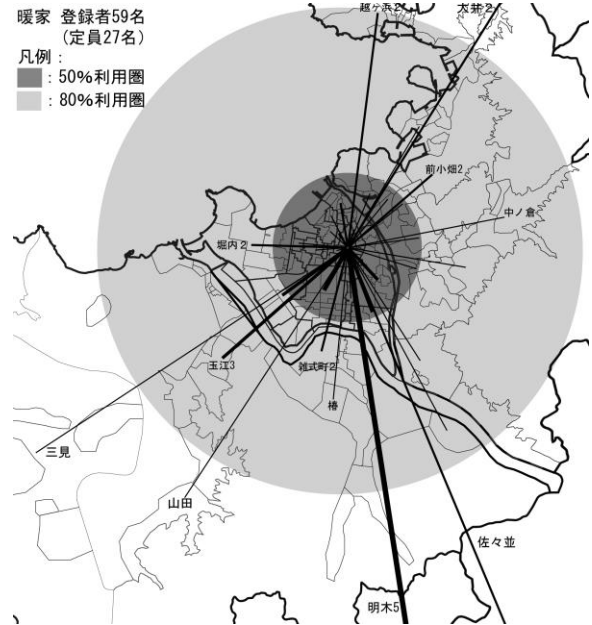


図1 施設利用圏

2. 施設の利用形態

2.1 施設利用圏

施設と利用者居住地の直線距離を用いて算出した施設利用圏を図1に示す。利用登録者数は59名で、50%利用圏は約1.2km、80%利用圏は約4kmと比較的狭い注1)。これは施設が萩市の中心市街地に立地しており、周辺からの利用が多いためと考えられる。一方、施設から7kmほどある明木からの利用も5名と多く、中心市街地以外の利用もみられる。

2.2 利用者の基本属性と利用形態

利用者の基本属性と利用形態を図2に示す。基本属性について、性別は約8割が女性と多い。年齢は85~89歳が約3割と最も多く、次いで80~84歳が25%と多く、80代で半数以上を占める。介護度は要介護1,2が7割を超え多いが、要介護4以上も1割程度を占め、要介護5の利用者も3名来所している。車椅子の利用者も3割程度を占める。

利用形態について、利用回数は週2回が35%程度と最も多いが、週3回以上も4割を超えており、利用回数が多い利用者が多い点は特徴である。入浴サービスは95%

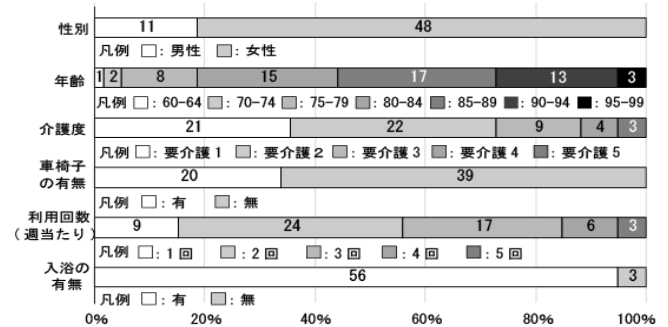


図2 利用者の基本属性と利用形態

表1 職員の役割分担と利用者の基本属性

記号(性別)	介護度			合計(人)
	8/28(火)	9/3(月)	9/7(金)	
A(女)	○	○△	○	利用者 合計(人) 20 22 18 60
B(女)	○□	○●	○□	
C(女)	○●	○	○□	
D(男)	○□	○□	○●	
E(女)	■	■	■	
F(男)	○●△	○□	○	
G(女)	△	△	□△	
H(男)	□	□	△□	
I(女)	■	■	休	
J(女)	休	●	○●	
K(女)	▲	休	休	
L(女)	休	■	■	
M(女)	休	休	●	

凡例：職員 ○：送迎 ●：入浴介助  
□：機能訓練・レク ■：調理  
△：バイタルチェック ▲：マッサージ

The use pattern and the usage of “Day Care Facility Danke”  
Management of a day care facility, preventive care and living support service converted a wooden house (Part 3)

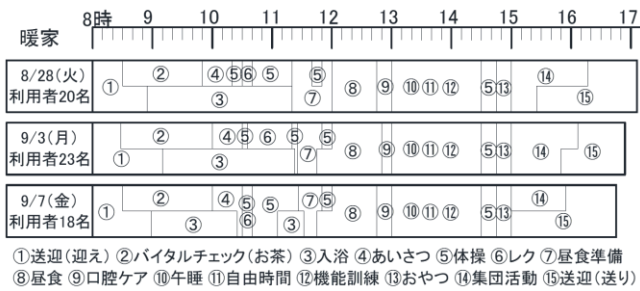


図3 1日の生活プログラム

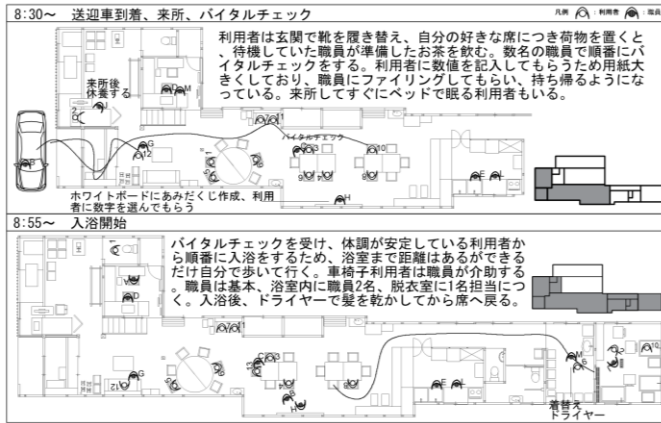


図4 送迎(迎え)・バイタルチェック、入浴

と大半の利用者が受けている。

### 2.3 調査期間中の職員の役割分担と利用者属性

調査期間中の職員の役割分担と利用者の基本属性を表1に示す。職員は1日9-10名で対応する。職員は1日の主担当が決まっているが、必要に応じて他の業務も担当する。送迎は利用者が多いため、送迎車4台で5-6名の職員が担当し、2-3回に分けて行う。入浴サービスは基本的に2人で行い、着替え補助と声掛けを担当する職員も1名配置している。バイタルチェックや機能訓練も主に2名が担当するが、手の空いている職員も補助にあたる。

調理は常勤とパート1名ずつの2名で3施設分の調理を担当している。パートは2名でシフト制である。また、希望者へのマッサージも行われており、准看護師・指圧師の免許を持った外部の方が担当しており、月～木、土曜日の13:00-15:00に行われる。

1日の平均利用者数は20名前後であり、半数以上が要介護1・2で、要介護3以上も3-6名が来所しており、車椅子利用者も1-3名いる。

### 3. 一日の生活プログラム

調査日の1日の生活プログラムを図3に示す。送迎(迎え)は8:00から始まり、30分ほどで1台目の送迎車が到着し、来所した利用者からバイタルチェックが行われる。入浴サービスは9:00頃から順次行われ、3日間とも11:30には終了していた。10:00から朝の会をし、準備体操としてラジオ体操、レクリエーション、体操が行われる。11:20頃に体操終了後、昼食準備に移る。その間に口

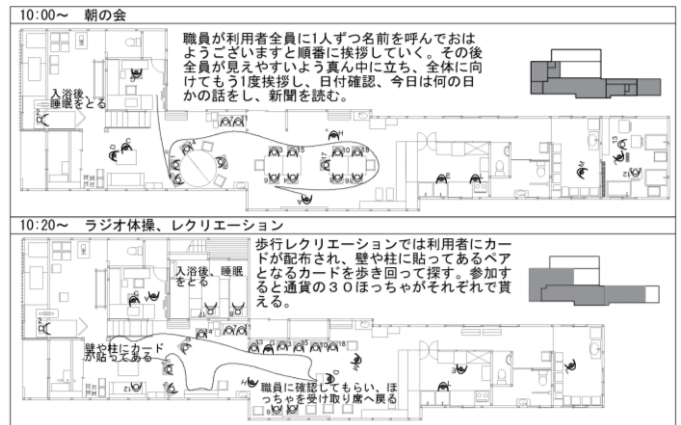


図5 朝の会、体操・レク

腔体操が行われる。12時前後に準備ができ次第昼食をとり、12:45を目安に片付けて口腔ケアをし、自由時間に移行する。午睡を取る利用者や機能訓練を行う利用者もいる。14:30からおやつを食べ、15:00から集団活動に移行する。送りは利用者の希望に応じて行われるため開始時間が3日間とも異なるが、15:00以降随時行われ、17:00までには終了する。また、この施設では独自のお金があり、貯めると外出等の特典に使用できる<sup>注2)</sup>。

このように一部開始終了時間にばらつきはあるが、1日の生活プログラムは同様である。そのため、本論では9/7を典型日として抽出し、1日の流れをみていく。

## 4. 生活プログラムと施設の使われ方

### 4.1 送迎(迎え)・バイタルチェック、入浴

送迎(迎え)・バイタルチェック、入浴の場面を図4に示す。送迎車が到着すると、待機職員が出迎え靴の履き替えを補助し席に誘導する。玄関の段差が大きいので、イスや踏み台を設ける工夫がなされている。到着時間に差があるため、到着した利用者からバイタルチェックを行い、数値は職員による記録だけでなく、読み上げて利用者も記入している。これは自分の体調面の把握や書く作業を促す意味がある。

入浴サービスは入浴する人数が多いため、バイタルチェックを受けた利用者から受ける。浴室内と脱衣所合わせて3-5名が同時に入浴する。体調によっては着替えだけの利用者もいるが、入浴時間は一人当たり約15-35分と差が見られる。

### 4.2 朝の会、体操・レク

朝の会、体操・レクの場面を図5に示す。朝の会は10:00頃開始され、1名の職員が担当する。挨拶から始まり、日付確認や今日は何の日かのお話があり、職員が気になった新聞記事を読む。

その後体操に移行するため、職員は折り畳み式の机を端に移動させ、利用者も職員の補助を受けながら席を壁際に移動させる。最初に準備体操としてラジオ体操を行う。基本的には座ったまま行うが、立つて行う利用者もみられた。次に頭も使う歩行レクリエーションとして、



図6 昼食準備・昼食

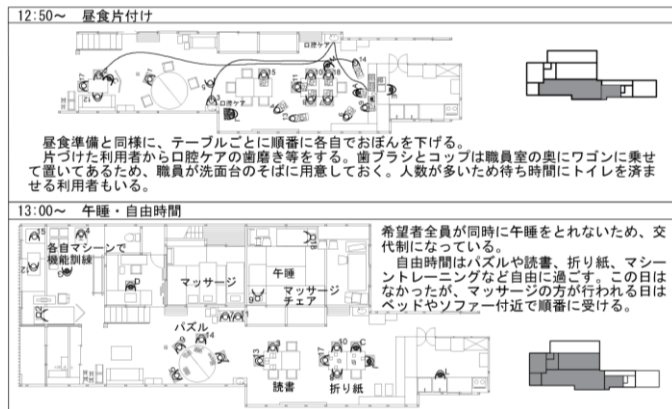


図7 昼食片付けと午睡・自由時間

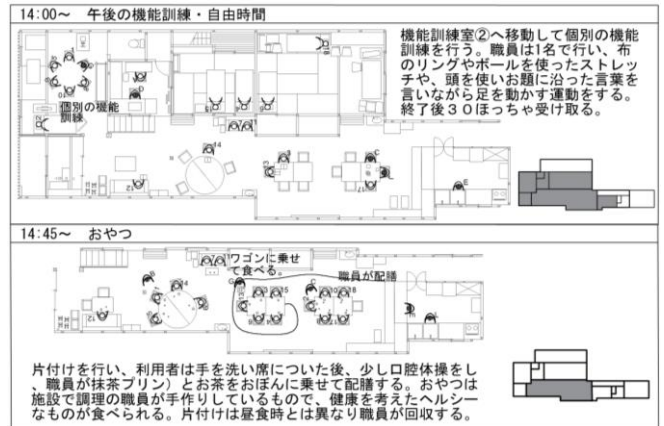


図8 午後の機能訓練・おやつ

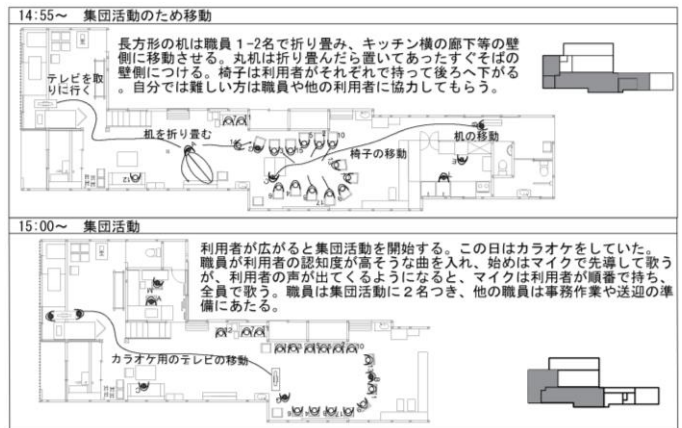


図9 移動・集団活動

この日は漢字の旁に合う部首を探すゲームが行われた。利用者は必要に応じて職員の介助を受けながら歩いて探し、漢字ができれば職員に確認してもらい、お金をもらい席に戻る。1度に全員動くと混雑してしまうため、2組に分けて行っている。他の日はことわざや四文字熟語を完成させるゲームも行われていた。最後に、上半身中心のイス体操、首・腕のリラックス体操、下半身中心の立位体操をし、全身を動かし、深呼吸をして終了となる。

### 4.3 昼食準備・昼食

昼食準備、昼食の場面を図6に示す。昼食はバイキング形式をとっており、キッチンのカウンターに料理が置かれ、利用者は各自で取りに行く<sup>注3)</sup>。汁物のみ職員が配膳する。全員一斉に行くくと混雑するため、テーブルごとに分かれて取りに行く。できるだけ自分で取りに行くよう働きかけており、運ぶことが困難な利用者も小さなワゴンを使用している。職員は必要に応じて補助している。これにより歩くだけでなく、自分で食べたいものや量を考えられ、運ぶことも含めて様々な機能訓練につながる。

昼食は12:00を目安に食べ始めるが、一部の利用者は玄関側のソファに移動してもらい先に食べ始める。食事時間が長い又は食事介助が必要である利用者が該当し、パーティションを使用することで他の利用者に配慮している。また、食事を終わる時間を調整することで職員の休憩時間を確保することができる。

### 4.4 昼食片付けと午睡・自由時間

昼食片付けと午睡・自由時間の事例を図7に示す。食器は各自でカウンターに運ぶ。食事準備と同様に、小さいワゴンを利用して利用者へ運ぶようにしている。その後口腔ケアを行うが、食堂兼機能訓練室①には洗面台が2つのみのため、順番待ちの利用者が多く見られた。午睡はベッド4台と布団を含めても10名程度しかできないため、交代で午睡をとる。その他の人は読書やパズル、折り紙などの手作業やマシンを使った個別の機能訓練を行う。さらに外部の方によるマッサージも行われ、5-10分の指圧や電気マッサージを受ける。利用者はマッサージを受けながら体調の相談もでき、特徴的である。

### 4.5 午後の機能訓練・おやつ

午後の機能訓練・おやつの場面を図8に示す。機能訓練は職員が該当する利用者へ声をかけ、機能訓練室②に移動して行う。機能訓練室②にはベッド1台とトレーニングマシンが3台、テレビ1台、歩行訓練用の平行棒などが置いてあり、機能訓練に使えるスペースは6㎡のみのため、5-6名で行う。参加後通貨をもらう。参加者が多い場合は2回に分かれて行う必要があるが、少人数のため職員が目が行き届いている。14:10頃には田町診療所の院長が利用者の様子を見に来られ、希望する利用者はその場で院長に体調に関する相談や軽い診断を受けてい



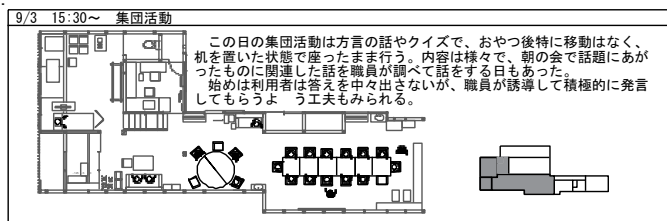


図 10 9/3の集団活動

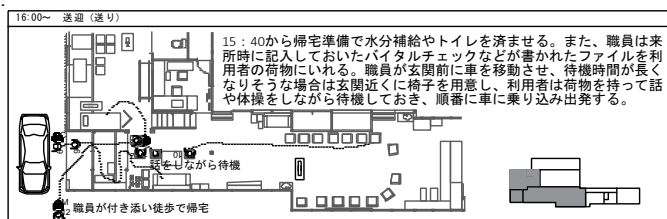


図 11 送迎(送り)

た。また、職員とも利用者の様子を報告することで、細やかなケアを行うことが可能となっている。

14:45 頃に片付けて手を洗いおやつに移行する。1名の職員が中心となり口腔体操を行う。終了後に職員がおやつとお茶を配膳し、配膳された利用者から食べ始める。大半の利用者が食べ終わったことを確認すると、テーブルごとに職員が回収する形で片付けを行う。

#### 4.6 集団活動

移動・集団活動の場面を図 9 に示す。集団活動の内容はカラオケ・クイズ・生活動作訓練・運動レクリエーションなど様々である。この日はカラオケが行われた。体操の時と同様に職員は机を折り畳み端に寄せた後、利用者も半円になるように席を移動する。職員はテレビを中央に移動させ、職員が先導し 1 曲ずつマイクを利用者で回しながら全員で歌う。職員は 1-2 名ついており、他の職員は事務室や玄関近くの机で事務作業を行う。

また、他の集団活動の事例として 9/3 の集団活動の場面を図 10 に示す。この日はクイズが行われたが、特に席移動は行わず、朝の会のように座ったまま職員が問題を出し、分かった方は随時発言する。

#### 4.7 送迎(送り)

送迎(送り)の事例を図 11 に示す。基本的には 16:00 に開始するが、日によっては 15:00 までの利用者もいるため、その場合は順次行う。20 分前ぐらいから帰宅準備を始め、トイレを済ませよう職員が声掛けを行う。玄関は靴の履き替えで利用者が混雑するため、機能訓練室①に椅子を用意して待機場所を確保している。また、送迎を待つ利用者も椅子に移動して、職員や利用者同士での会話や軽い体操等をしながらか待機する。職員が付き添い徒歩で帰る利用者や家族が迎えに来る利用者もいる。

## 5. まとめ

- 1) 施設利用圏は 50%が 1.2km と比較的狭く、萩市中心市街地からの利用者が多いが、遠方からの利用者もいる。利用者属性は 8 割が女性で、80 代の利用者が半数以上を占める。介護度は要介護のみで、要介護 2 が多いが、要介護 4、5 の利用者も来所している。利用回数は週 2、3 回の利用者が多い。
- 2) 利用者が 1 日の大半を過ごす食堂兼機能訓練室①の広さは十分にあるが、空間が細長く利用者が一度に動くと混雑することから、数グループに分ける等の工夫がみられた。また、午睡も全員取るスペースはないため、順番で取っていた。
- 3) 体操や個別の機能訓練に加えて、バイタルチェック時結果の記録や昼食時のバイキング等機能訓練につながる活動を積極的に取り入れていることが分かる。また、体操等への参加でもらい、特典と交換できる独自のお金をつくるなど、利用者の活動を誘発するシステムを取り入れている点も評価できる。
- 4) 施設と診療所が近くにあるため、院長が直接利用者の様子を見に来ることができ、利用者は体調を気軽に相談できている。また、院長と職員が情報共有することで、細やかなケアを行う等医療法人運営施設ならではの活動もみられた。

## 注

- 1) 既往研究<sup>1)</sup>によれば、旧萩市内に位置する通所介護施設の利用圏の平均は 50%利用圏が 2.4km、80%利用圏が 4.1km である。
- 2) 「ほっちゃ」という施設の通貨は社会福祉法人 夢のみずうみ村山ロデイサービスセンターの取り組みを参考にしたものである。体操や機能訓練に参加すると決まった額をもらい、貯めるとドライブ、買い物、自分の写真入りカレンダー等の特典がある。
- 3) デイサービス開始当初からバイキング形式をとっており、これも夢のみずうみ村山ロデイサービスセンターを見学したのがきっかけで始めた。

## 参考文献

- 1) 三島幸子他 4 名：社会福祉事業団による高齢者通所介護施設の整備プロセスと利用特性，日本建築学会計画系論文集，第 82 巻，第 732 号，pp. 353-361，2017. 2
- 2) 中園真人他 2 名：木造民家を再利用した高齢者デイサービス施設の空間構成と使われ方，日本建築学会計画系論文集，第 79 巻，第 696 号，pp. 491-499，2014. 2

\* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

\*\* 島根大学学術研究院環境システム科学系 助教・博士(工学)

\*\*\* 山口大学大学院創成科学研究科 教授・工博

\* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

\*\* Assistant Prof., Institute of Science of Environmental Systems, Shimane Univ., Dr. Eng.

\*\*\* Professor, Graduate School of Sciences and Technology for Innovation, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.